



ナウミン

浜松市博物館情報



シズル

Hamamatsu City History Museum News

2023.2.15

No.354

博物館におけるイベント企画（教育普及事業）

～ 体験活動でより深い発見を クイズラリーで幅広い発見を ～

「浜松市民なのに、知らないことがたくさんありました。」「来るたびに新しい発見があります。」「歴史にとても興味がありました。」「実際に体験できて勉強になりました。」

そう話され、充実した表情でお帰りになるお客様を見るときが、博物館スタッフにとって大きな喜びを感じる瞬間であり、働く上での大きなやりがいの一つとなっています。そのようなお客様の姿を想像しながら、様々なイベントを企画・運営しています。主なイベントとしては、「GW体験館」「夏休み体験館」「冬休み体験館」「春休み体験館」「昔のくらし体験館」などがあり、毎年、たくさんの方が来館します。

これらのイベント企画において、最も大切に行っているのは、イベント名の通り「体験」ができる活動です。「まが玉つくり」は、石を削って形を整えていく活動そのものが楽しく、完成が楽しみな体験です。その中で「大昔の人はどうやって削っていたのだろう。」「疑問をもち、想像を膨らませるきっかけになります。洗濯板を使って洗濯をしてみると、凹凸の向きがあることに気付き、石鹸をつけてこしこしと洗う中でその理由に気付くことができます。このように、「体験」によって大切な気付きがあり、より深い発見、実感を持った理解につながります。

近年、デジタル化が急速に進み、一層簡単に、しかも分かりやすい情報を入力できる時代となりました。しかし、「体験」による学びの効果は大きく、このような時代だからこそ、「体験」が重要であると考えています。

もう一つ、力を入れている活動があります。それは、イベント期間中の来館者のほとんどが行う「クイズラリー」です。もともと歴史への興味や関心が高い、または明確な目的をもって展示を見ている方もいますが、そうではない方の中にはいます。展示を何気なく見て終わってしまう、見る箇所が偏ってしまう、またはそもそも展示を見ない。そこで大切になってくるのが、「クイズラリー」なのです。入口にあるクイズラリーの用紙を何気なく手に取り、クイズを解きながら、展示されている資料を探し、文章を読む。親子であれば、子供から質問され、否応なしに考え、なるべく分かりやすい言葉で返す。何気なく始めたクイズラリーが、問題を解いていくことを通じて、いつの間にか展示に引き込まれる、「幅広く新しいことを発見する」機会となるのです。当博物館では、イベントのたびにクイズの問題を変え、レイアウトやおまけの内容（迷路や塗り絵など）も工夫して作成し、好評を得ています。

これらのどの活動においても大切にしていくことがあります。それは、「スタッフのいることがありません。それは、「スタッフのお客様へのかかわり」です。まが玉をつくることだけで終わってしまうのではななく、「とても上手につくっているね。昔の人はどんな気持ちでつくっていたのかな。」と親子に問いかけます。「確かに…。どんな気持ちかな。」それだけで、考えるきっかけになり、親子の話題の１つになります。スタッフの何気ない一言によって、その活動がより意義のあるものに変化するのです。

クイズラリーの問題には、「スタッフに聞く」という問いを設定しました。スタッフに問題や答えの解説を聞き、対話をする、そのやり取りの中でも新たな発見があります。紙媒体だったクイズラリーが急にあなたかみをもち、そこで得た情報が深みのあるものとなるのです。

展示資料は、それだけで歴史的な価値があり、魅力があります。しかし、多くの人に歴史を知ってもらい、興味をもってもらうためには、「展示」だけでなく、「展示（歴史）」と関連させた意義ある「活動」が必要であり、「人とのかわり」が大切であると考えています。当博物館では、これからも、その考えを大事にした企画をし、お客様の来館を心待ちにしております。



クイズラリーでスタッフとかわる様子

【博物館所蔵資料の紹介】

「昔のくらし体験館」で体験できる道具紹介

○火のしと炭火アイロン

「火のし」は中に熱い炭を入れ、木製の柄を持って使います。あてる部分の布は、霧吹きなどを使って湿らせておきました。細かい部分は、「こて」という道具を使いました。

「炭火アイロン」は全体が鉄でできており、その重さと中の炭火の熱でしわを伸ばしました。熱を逃がし、炭火が消えないように空気を取り入れる煙突や穴があります。



○行灯

油を燃やして火をともし、室内を明るくする道具です。明治時代にランプが広まるまで使われていました。風で炎が揺れたり消えたりしないように、紙を貼ったおおいがっています。その分、明るさは弱く、部屋の隅までは照らせませんでした。



○洗濯板

洗濯物に石けんをつけ、ギザギザの板の上にこすりつけて汚れを落としました。布をこするの、水をしぼるの、大変力のいる仕事でした。石けんが使われるようになる前は、米のとぎ汁や、灰汁（灰を水につけた上澄み汁）を使うこともありました。



○綿繰り機と糸車

綿花からとった綿を「綿繰り機」に挟んで取っ手を回すと、綿から種が分離します。その種を取った綿を「糸車」の「つむ」と呼ばれる部分につけて取っ手を回し、つむの部分回転します。何度も撚りをかけることで糸にしていきます。そして、そのつむに糸が巻き取られていく仕組みになっています。



○その他の体験できる道具

背負子、天秤棒、唐箕、秤、火鉢、火打石 など

催し物のご案内

★テーマ展 「家康伝承と浜松」

開催中～9月24日(日)

浜松の各地に残された、家康にまつわる「家康伝承」に焦点をあてて、後世の浜松の人々がもった家康に対するイメージについてご紹介いたします。

*ギャラリートーク

3月1日(水)、4月15日(土)

10:00から30分程度

★小展示「道具たちの100年」

開催中～5月21日(日)



★小展示「干支展 卯」

開催中～3月5日(日)

★昔のくらし体験館

2月25日(土)、26日(日)

★火起こし体験

3月4日(土) 13:00～15:30

★春休み体験館

3月18日(土)～26日(日)

※20日(月)・22日(水)は休館

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

3月11日(土)、4月8日(土)

14:00から30分程度

場所：蛸塚公園内旧高山家住宅



参加無料、事前申込不要

※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、ホームページ、SNSでご確認ください。
※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から
ホームページ
ツイッター
インスタグラム



新型コロナウイルス感染予防対策として、ご来館の皆様は以下のことをお願いしています。
・マスクの着用 ・館内での会話は控えめに
・同行者以外との距離をあげる
※体調がすぐれない場合は来館をご遠慮ください。

浜松市博物館 開館時間：9時～17時

〒432-8018 浜松市中区蛸塚四丁目22番1号

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

2～4月の休館日：2/20, 24, 27, 3/6, 13, 20, 22, 4/3, 10, 17, 24, 26

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/